

# 7月の農作業

平成22年7月12日  
J A テラル 越前  
奥越農林総合事務所

## 今月のポイント

### 梅雨時は病害虫に注意

★ 穂肥の適期施用で

グレードアップ米

★ 間断通水の徹底

★ 水稻の病害虫防除の徹底

(イモチ、モンガレ、イネアザミウマ、カメムシ)

★ 里芋の土寄せと子ズイキ刈り

★ ナスの整枝せん定

★ ネギの排水対策・

土寄せと防除

★ キクの収穫

★ シンテツポウユリの収穫

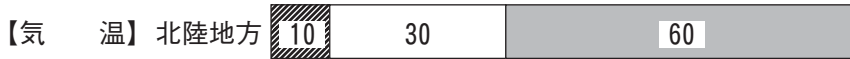


## 1. 今後の気象予想 (新潟地方気象台)

北陸地方 1か月予報

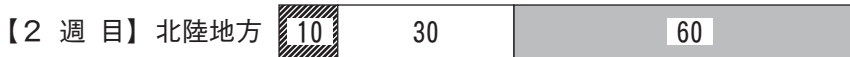
(6月27日から7月25日までの天候見通し)

〈向こう1か月の気温・降水量・日照時間の各階級の確率(%)〉



■ 低い (少ない) □ 平年並 ■ 高い (多い)

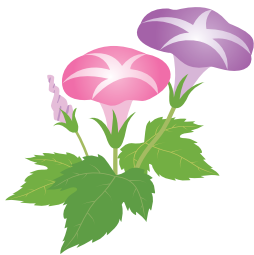
〈気温経過の各階級の確率(%)〉



■ 低い □ 平年並 ■ 高い

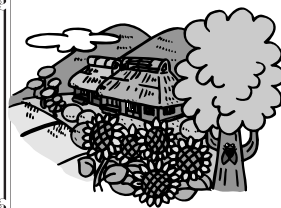
## 予想される 向こう1か月の 天候

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は左記のとおりです。平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1か月の気温は高い確率60%です。週別の気温は、1週目は高い確率80%、2週目は高い確率60%です。



〈予報の対象期間〉

- 1 か月：6月26日（土）～7月25日（日）
- 1 週目：6月26日（土）～7月2日（金）
- 2 週目：7月3日（土）～7月9日（金）
- 3～4週目：7月10日（土）～7月23日（金）



北陸地方3か月予報

〈7月から9月までの天候見通し〉

〈予想される向こう3か月の天候〉

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は平年並または高い確率ともに40%です。

【7月】

平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。気温は平年並または高い確率ともに40%です。

【8月】

平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

【9月】

天気は数日の周期で変わってでしょう。残暑の時期がある見込みです。気温は高い確率50%です。

〈向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)〉

【気 温】

【北陸地方】	3か月	7月	8月	9月
	20% (低い) / 40% (平年並) / 40% (高い)	20% (低い) / 40% (平年並) / 40% (高い)	30% (低い) / 40% (平年並) / 30% (高い)	20% (低い) / 30% (平年並) / 50% (高い)

【降 水 量】

【北陸地方】	3か月	7月	8月	9月
	30% (低い) / 30% (平年並) / 40% (高い)	30% (低い) / 30% (平年並) / 40% (高い)	30% (低い) / 30% (平年並) / 40% (高い)	30% (低い) / 40% (平年並) / 30% (高い)

■ 低い (少ない) □ 平年並 ■ 高い (多い)

## 2、農作物対策

### 水稲

奥越産米の  
グレードアップは、  
これからが本番！  
食味、品質を高めて、  
『売れる米』を  
作りましょう!!

これからは、体づくりから穂づくりの大切な時期です。  
穂肥の施用時期については、田植時期によって生育差がありますので、必ず幼穂を確認してから施肥してください。

### 倒伏軽減剤

過剰生育圃場では、倒伏軽減剤の使用を考慮してください。  
なお、使用にあたっては、各支店の営農指導員・普及員にご相談してください。

### 水管理のポイント

- 幼穂形成期以降は、間断通水に努めましょう。特に、コシヒカリの大粒化対策の1つは、土壌水分を保ち肥効を維持することです。
- おくほまれ・五百万石は、幼穂形成期間（特に7月中旬）の低温の日は、不稔を防ぐため湛水し、保温しましょう。
- フーン現象が予想される日は湛水し、稲体の蒸散を防ぎましょう。
- 刈り取り5日前までの通水により、米の充実を促しましょう。

### 穂肥

慣行施肥（元肥＋穂肥）では、時期を逃さず、1回目と2回目の連続した施肥により、稲体の栄養状態を高めましょう。

穂肥の施用時期・施用量は、食味に大きく関与しますので、基本技術を厳守し、食味の安定向上に努めましょう。

ただし、葉色が薄く、地力がない一括側条施肥圃場では、営農指導員と相談し、2回目の穂肥期に施肥判断をしてください。（地力や気象等十分加味）

### 【施用時期】

- 早生  
第1回目の穂肥を施用してから1週間後に、第2回目を施用してください。
- コシヒカリ  
第1回目の施用時期は、7月



中旬の見込みですが、各支店での作見会、営農特報を参考にしてください。  
特に、倒伏軽減剤の使用判断や圃場毎の生育が異なりますので、必ず幼穂長10ミリを確認し、施用してください。

# 病害虫防除

害虫予防は、畦畔の除草から  
一斉防除日の営農特報を参照してください。



**必ず、2回防除をお願いします。**



(斑点米多発地は3回防除を実施してください)

## ○紋 枯 病

紋枯病は、毎年同じ所に発生しやすく、昨年発生した圃場では注意して見回り、初発を見たら薬剤を株元に吹き付けるように散布してください。



## …………… 一斉防除について ……………

**斑点米の多発地域は3回防除を実施してください。**

- 1回目 出穂直前 カスエルバッサ粉DL粉剤
- 2回目 穂 揃 期 アルバリン粒剤またはDL粉剤
- 3回目 傾 穂 期 ビームキラップジョーカーDL粉剤

(アルバリン粒剤〔カメムシ専用〕は水を張って散布してください)

〔1回目は穂が出る直前に散布〕

……………

## **一斉防除の2回防除体系〔通常〕**

- 1回目 穂 揃 期 カスエルバッサ粉DL粉剤
- 2回目 傾 穂 期 ビームキラップジョーカーDL粉剤

# 里 芋

## 1、水管理

根の健全な生育を進めるため、排水対策を徹底しましょう。

晴天続きの時は、マルチを浮かせて3〜4日おきに夕方の地温が下がった時に、畝間灌水を行い翌朝には排水を行います。 (長時間の滞水はしないでください。)

## 2、子ズイキの

### 刈り込みと土寄せ

7月上旬 (本葉7枚以降) より、子芋の栄養成長が盛んになり、子ズイキが発生します。放置しておくとしらになり品質がおちるので、2〜3葉期までに必ず刈り込みを行います。また、この頃より親芋の肥大

が盛んになり、子芋の形成が始まるため、浅植えのところは日焼け芋など品質が悪くなるので、株元を中心に土寄せを行います。

## 3、害虫防除

害虫名	薬剤名	使用濃度	10a当り使用量
ヨトウムシ類	エルサン粉剤 2		3 kg
	トレボン乳	1,000倍	100~200 ℓ
ハダニ	ニッソランV乳剤	1,000~1,500倍	

# ナ ス

## 1、誘引

・誘引方法は「縦糸誘引」とし、合掌上段の直管パイプに35〜37cmで、等間隔にビニール紐(白糸系統が望ましい)を結び、下段の直管パイプまで引き、結びましょう。このビニール紐に4本の主枝が伸びてきたら、随時ビニール紐に結んでいきます。この時「テーパー」を使用すると作業が簡易になります。

## 2、追肥

・最初の追肥は、収穫始めと同時に施用します。追肥は生育を見に行いますが、原則として追肥開始〜7月中旬までは10日間隔、7月下旬〜8月末までは7日間隔とします。

・苦土欠乏になると花が不良になるので、15日置きにサンメイトを施用しましょう。

## 3、敷きワラ

・梅雨明けの高温期には根が弱るので、マルチ下または上にワラやかやなどを敷いてください。なお、完熟堆肥をマルチ下に敷く方法も根を高温から保護することができます。

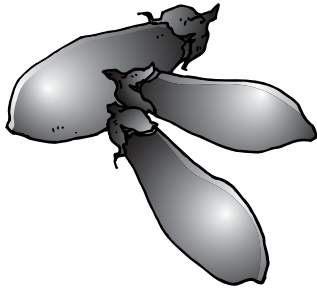
## 4、灌排水

・土壌水分を一定に保つことで根の活力が維持されます。  
・土壌を湿った状態に保つために高温、乾燥期には夕方に灌水し、早朝に落水しましょう。また梅雨、豪雨の時は、長時間のたまり水のないように排水に努めましょう。

## 5、収穫

・収穫は原則として早朝に行い、100～120gを中心に収穫しましょう。

なお、収量の多い夏季は前日の夕方に収穫することがありますが、この場合気温が下がった夕方5時以降とし、果実の軸を長めに残す（出荷調整時に再度適当な長さに切ります）と共に果実の上に濡れた布をかけ、屋内の涼しい場所に保管しましょう。また、収穫時には、側枝の切り戻し剪定を同時に行い、作業の効率化に努めましょう。



## 6、病害虫防除

病害虫名	薬剤名	使用濃度	10a当り使用量	使用時期(収穫)	使用回数
ハダニ	ピラニカEW	2,000倍	150～200ℓ	前日まで	1
ハスモンヨトウ	マトリックフロアブル	2,000倍	150～200ℓ	前日まで	3
カメムシ類	マラソン粉剤3	—	3kg	前日まで	6
灰色カビ病	セビアーフロアブル20	1,000倍	150～200ℓ	前日まで	3
うどんこ病	ベルクト水	3,000倍	150～200ℓ	前日まで	3

## ネギ

### 1、排水対策

梅雨入り前に排水溝の再整備を行い、圃場内の排水性を高めましょう。（高温時の停滞水は根腐れや軟腐病を多発させます）

### 2、乾燥時の灌水

ネギは比較的乾燥には強いいため、極端な乾燥による生育不良の場合を除いて灌水をする必要はありません。万一、晴天続きによる乾燥で定植株元に強いひび割れが発生する等、土が極端に乾燥してきた場合で灌水をしなければならぬ時は、圃場内に停滞水が出ない程度に灌水しましょう。

ただし、灌水は湿害による生育不良、軟腐病を誘発する恐れもあるので注意してください。

## 3、病害虫防除

病害虫名	薬剤名	使用濃度	10a当り使用量	使用時期(収穫)	使用回数
黒斑病	ロブルール水	1,000～1,500倍	100～150ℓ	14	3
さび病	ラリー水	2,000倍	100～150ℓ	7	3
軟腐病	バイオキパー水和剤	500～2,000倍	150～300ℓ	発病前～発病初期	—
アザミウマ類 ネギコガ	アグロスリン乳	2,000倍	100～150ℓ	7	5
ネギアザミウマ	アルバリン顆粒水	400倍	0.4ℓ/m <sup>2</sup>	14	2
シロイチモジヨトウ	アファーム乳	1,000～2,000倍	150～300ℓ	7	3

# 花卉

## キク

本年は気温が低く病害虫の発生が遅く、今後好天が続くとダニ等が発生してきます。病害虫防除を徹底して9、10月咲きの品質向上を目指しましょう。

### 8月咲きの管理

○出蕾期に入り、中輪ギクでは摘蕾作業を行います。早めの作業を心がけてください。

○Bナイン（ホルモン剤・伸張抑制・800〜1000倍）は、最も早い蕾が確認できた時と摘蕾時に1回ずつ散布します。

### 9月咲きの管理

○病害虫防除の徹底に努めます。

### 10月咲きの管理

○ピンチ後、20日程度で草丈が5cm以上になります。1株3本前後で、すぐり（間引き）を行います。

○すぐり後は株張りが十分ではないので、雨風などで倒れる恐れがあります。早めにネットを上げてください。

### 病害虫防除

既に管内全域で、ダニの発生が若干見受けられます。

#### ○ダニ

ハダニ類は、25〜28℃くらいの温度で乾燥した状態であると、繁殖し出します。

多発すると防除が困難になるので、早期発見に努めて寄生密度の低い間に防除します。（目安を25℃とします）

散布むらのないよう、吹き上げで丁寧に散布し、また、単剤での散布を行ってください。

ダニは抵抗性がつきやすいので、異なる系統の農薬をローテーション散布します。

#### 【主な使用農薬】

##### 卵〜幼虫

オサダンフロアブル・ニツソラン

##### 卵〜成虫

バロックフロアブル・マイトコーネフロアブル・ダニカット乳剤・粘着くん

※カネマイトフロアブル（出蕾時に散布すると薬害の恐れがあります）

#### ○白さび・黒斑褐斑・灰色

##### カビ病

#### 【主な使用農薬】

ジマンダイセンフロアブル・ダコニール1000・ベンレート水和剤など

#### ○スリッパス

（アザミウマ類）

蕾の中にスリッパスなどが入りますと防除が困難になり品質が低下しますので、開花の早い品種から防除を徹底してください。

#### 【主な使用農薬】

ジェイエース水溶剤・ハチハチ乳剤・コテツフロアブル・プリンスフロアブル

## スプレーギク

○7月の作業は、挿し芽・圃場の準備・定植を行います。



# ユリ

○草丈が20cmまでは液肥（OKF1・1・500～1,000倍）を1週間に1度程度施用します。

○抽台以降は、灌水は行わず、極端に乾燥した場合は適宜灌水を行います。

## 病害虫防除

### ○葉枯病

葉枯病が発生すると農薬を散布しても病気を抑えにくいので、予防を徹底しましょう。

#### 【主な使用農薬】

ダコニール1000・フロンサイド水和剤・フルピカフロアブル・トッジンM水和剤

### ○アブラムシ

#### 【主な使用農薬】

ジェイエース水溶剤・トレボン乳剤・アドマイヤーフロアブル

